

ひばりが丘 M カフェだより No.4 2017. 1. 21 発行

編集・発行：メディカルカフェひばりが丘

メディカルカフェひばりが丘は一般社団法人がん哲学外来の協力のもとに運営しています。

詳しくはホームページで。全国のカフェ情報もあります。⇒<http://www.gantetsugaku.org/>



昨年5月にスタートしたがん哲学外来メディカルカフェひばりが丘は、1月で5回目となりました。場所は住宅街にある教会ですので、当初はどれほどの方が来て下さるか、見当もつかなかったのですが、「がん哲学外来」のホームページを見て問い合わせ、参加して下さる方がおられます。小さな「場」が用いられることを感謝しております。今後も、奇数月の第3土曜日に開催することを基本に活動する予定です。

また、5月は開設1周年を記念して、3日（水・祝）に樋野興夫先生の講演会を予定しています。詳細は決まり次第チラシやホームページでご案内いたします。

12月11日（日）、ひばりが丘のカフェ創設の種を蒔いてくださった、秋山美奈子さんの追悼記念講演会を42名の方と持ちました。バイオリン「アヴェ・マリア」、ラジオ NIKKEI の美奈子さんのお話し（録音）、東久留米カフェスタッフ・小林真弓さんと、東村山カフェスタッフ・吉見智子さん、美奈子さんの姉・原由美さんによる「思い出」、樋野興夫先生のご講演、お連れ合いの秋山敏之さんのご挨拶、最後は美奈子さんご夫妻の思い出の曲、Dreams Come True の「未来予想図Ⅱ」を全員で歌い、祈りをもって閉会しました。遠く名古屋から駆けつけた方もいて、がん哲学を通して与えられた出会いと、かけがえのない温かい交流を共に分かち合う感謝の時となりました。ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。がんであっても患者ではない生き方に気づき、ご自分の使命を全うされた美奈子さんからいただいた、命の輝きと共に、カフェを続けてまいります。

（世話人代表 田鎖夕衣子）

第4回目を終えて

11月19日に開催した第4回メディカルカフェには、「紅葉」バイオリン演奏と歌で始まり、15名の方が集いました。

3つのテーブルに分かれたので、それぞれじっくり語り合うことができました。寒くなってきたためか、ミルクティーやホットレモンなど甘いドリンクが人気でした。

スピードや効率を求められることの多い時代、温かい心とやわらかな言葉で接し

てほしいと願うのは自然なことでしょう。

カフェでお話しを伺うと、どの方もとても想像のつかないような痛みや苦しみを経験し、重荷を負っておられることを知ります。そしてまた、それでもこうしてカフェと足を向けて、勇気を出して語り、2時間後にはそれぞれ家路へと歩み出される姿に、生きることの貴さを思い、力を与えられます。

「ひばりが丘 M カフェ」の 午後のひととき

川崎 康子



ピアノ、バイオリンの心地よい音色、季節に合った「紅葉」のメロディーでカフェが始まりました。

今回で4回目。実は夫が大腸がん（S字結腸）で、6時間にわたる手術を受けました。その後「がん哲学外来メディカルカフェ」が開催され、何かを求めたい、夫と面と向かって話し合うのは息苦しい……それが参加のきっかけでした。そのうちに夫も参加するようになりカフェでの友も出来、資料を持って参加、何か得る物を持って帰っているようです。

これまでに、他のメディカルカフェから参加されていたお二人が天に召されました。このことは悲しいことではありますが、明るく前向きだったことが思い出されます。

参加されているお一人、お一人は、胸の中に大きな苦しみをかかえていながらも、皆さん朗らかで、そのすばらしさに感動いたします。

私が今回投稿させていただきたいと思った事の一つに、同じグループにいらした方のお話しです。20余年程前に乳がんで左胸を摘出し、その後、温泉の大好きなご主人に誘われてからは、温泉にも行けるようになったそうです（そこには、勇気、工夫、配慮もあるようです）。

今の彼女を見ていると、朗らかで、前向

きで、元気でいられるのはあの時の苦しさを体験なさったからこそだと…ほんとに心打たれました。最後にこのような言葉で締めてくださいました。

ある方が言ったそうです。「私はがんで死にたい」。なぜなら、「ゆっくり終活ができるから」だそうです。

一昔前なら、「がんで死にたい」など言う人はいなかったでしょう。医療も日進月歩。それにつれて、がんと付き合い方もどんどん変わっていることに気づかされました。

今回も新たに出会う方達も何人かいらっしゃいました。2時間余りの談話の中から、その方達が来た時と違った気持ちで帰宅できますように。

そして今後も続くであろう、この〈ひばりが丘メディカルカフェ〉に参加し、出会いを与えられたことに感謝しています。

☆川崎康子さんは、受付やお茶の用意など、さわやかな笑顔と行動力でお世話をなさっています。

2015年に、ご主人に大腸がんが見つかって手術を受けられますが、その年の暮れには康子さんが手首を骨折するという試練に遭われました。お二人それぞれが苦難を経験し、一緒に乗り越えられて、今このカフェに参加して下さっていることに、私たちも支えられ、励まされています。

メディカルカフェに参加すると、毎回出会いがあり、小さくても、何かしら発見があるものです。

これからも一緒に歩いていきましょう！

メディカルカフェで 「がん」を学ぶ

水岡 諭



第4回メディカルカフェに初めて参加させて頂き、がんを経験された方や、家族ががんにかかった方のお話を聞かせて頂きました。

私自身はがんを経験したことはありませんが、私の母が7年前に大腸がんにかかりました。

当時の母は便秘と下血に悩まされ、最初に病院に行った時は、便秘と痔と診断され、薬を処方されました。その時のお医者さんは、大学病院から来ている若い先生だったそうです。

それから3ヶ月後も症状は良くなり、かえって悪化しており、再度同じ病院に行き、今度は近所でも評判の良いベテランの先生に診てもらおうと、お腹を触っただけで、その張り具合から、『これはまずい』と感じたそうで、すぐ内視鏡の検査をし、大腸がんとわかりました。

がんはすでに内視鏡では切れない程に大きくなっており、開腹して手術をしました。手術後に切り取ったがんを見せて頂いたのですが、がんが大腸の大部分を塞いで、便がかなり出にくい状態だったことがわかり、母は3ヶ月間とても苦しい思いをした事がわかりました。

幸い、他の部分への転移はありませんでしたが、その後は1ヶ月ほど入院し、退院後も抗がん剤を飲み、1ヶ月ごとに検査を受けていました。

その2年ほど後に、母が住む私の実家の福島県南相馬市を東日本大震災が襲い、母は栃木県に避難し、担当の先生もどこに避難したのかわからない状態になりました。母は人伝に担当の先生の避難先の病院を探し出し、毎月車で2時以上かけて、担当の先生の避難先の病院に通いました。

私は、「栃木にも国立栃木病院や自治医大など、良い病院はあるので、近くの病院に転院したらどうか」と勧めましたが、母はそれを拒み、栃木に避難していた2年間、毎月2時間以上かけて担当の先生の病院に通い続けました。

現在は母も担当の先生も、南相馬市に帰ってきておりますが、今回のメディカルカフェでがんを経験した方々から、がん患者と主治医の関係がいかに大切かを教わり、また、がんにかかった方がどれだけ精神的に不安なのかを教わることにより、私はやっと母の気持ちがやっとわかったような気がしました。母にとっては、担当の先生はまさに「救世主」の様な存在であったのだと思います。

私は、最初は、『がんの方やがんを経験した方たちのお話を聞いて、少しでも心の支えになることが出来れば。』と思っていたのですが、皆さんの話を聞き、かえって私が勉強をさせて頂きました。また、がんは患部や進行具合によって、治療方法が全く異なることや、お医者さんや病院によっても



治療に関する考え方が全く異なることなど、がんに関する様々な知識を得ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今は2人に1人ががんにかかると言われている時代です。このメディカルカフェが、がん患者の方々の心の支えになっているだけでなく、がんに関する知識交換の場としても役に立っていることがわかり、このメディカルカフェがこれからもっと全国各地に広がっていけば良いと、あらためて感じました。

☆今回初めて参加して下さった水岡諭さんは、この日はカフェの準備にも積極的に加わってくださり、対話の場では「聴く」ことによってご自身のお母様の気持ちに寄り添うことができたそうです。素直な感想をお寄せいただき感謝いたします。

また、妻の寛子さんは、バイオリンの演奏で第1回からひばりが丘のメディカルカフェを支えてくださっています。



編集後記にかえて——— 田鎖瑞枝 〈秋山美奈子さんを追悼して〉

秋山美奈子さんとの交流は1年間で5回。短期間のおつき合いなのに、そのようには思えません。自分の「いま」をしっかり受けとめて「これから」を展望して具体的に行動する美奈子さん。

様々なことを失望に終わらせず、希望を見出して進む美奈子さん。がん患者ながら軽やかに弾んだその生き方。

自分の娘と同年代の美奈子さんから、どんなに多くのよいものを頂いたことか——。

そのしっかりと生き抜く姿に、私たちは勇気と希望をもらいました。ありがとう。

樋野先生の愛弟子の一人であったことを今、気づかされています。

昨年5月、カフェスタートの時、あなたはブーケを手に溢れる笑顔で現れました。そして12月、お別れの会の午後にはご夫君がブーケを持って来られました。

愛犬のハンナはいつものように車の中でじっと待っていました……。

メディカルカフェひばりが丘 今後のスケジュール

★第6回メディカルカフェ
3月18日(土) 13:30-15:30

★開設1周年記念 樋野興夫先生講演会
5月3日(水・祝) 13:30-15:30

会場：ひばりが丘教会
FAX 048-479-7274
e-mail yupeace@tbz.t-com.ne.jp
tel. 090-8086-3409

申込は田鎖夕衣子(たぐさりゆいこ)まで